

学術情報ネットワークパケット交換網の廃止について

1. 現状

学術情報ネットワークの最初のサービスとして開始された「学術情報ネットワーク・パケット交換網の加入機関数」は、昨今のインターネットの急速な進展に伴い減少の一途をたどっており、平成 12 年度末以降も加入する予定の機関は数機関となっている。

この、国立情報学研究所が運用する「学術情報ネットワーク・パケット交換網」は、機器の管理負担が大きい反面（設置面積，消費電力），最近では利用率の低下が著しいため，設置ノードからは早期の廃止を求められている。

また，機器の老朽化もあり，インターネット（TCP-IP）接続を提供する SINET 関連の機器に比べ，故障率が高くなっていることから，常に信頼性の高い通信品質を提供するのが困難になると思われる。

本研究所としては「学術情報ネットワーク・パケット交換網」を早期に廃止し，インターネット方式に一元化したいと考えており，「学術情報ネットワーク・パケット交換網」加入機関の関係者には，廃止計画のご理解とご協力をお願いする。

なお，現在の利用状況は，次のとおりとなっている。

（1）G4FAX

現在，全国の 36 機関に設置されており，平成 13 年 3 月にレンタル期間が終了する。その時点で機種の変更を行うことにより，パケット交換網の利用を停止する方向で，国立大学図書館協議会で対応を検討中である。

（2）各サービスの利用

目録所在情報サービスのオープンシステムへの全面移行を進めており，平成 16 年 12 月には，VTSS による接続は廃止される。

また，MHS による電子メールサービスも平成 12 年 10 月をもって廃止される。

（3）N1 ネットワーク

平成 11 年 12 月をもって廃止済み。（2000 年問題に対応しないため。）

2. 廃止スケジュール（案）

	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
1)パケット交換機		← 撤去 →				
2)N1ネットワーク	12月廃止済					
3)MHSメール		10月廃止				
4)図書館システム(旧CAT) ・研究所側汎用機 ・大学側 学情パケット網接続		← 廃止 →				12月廃止